

2016（平成 28）年度活動報告

部会長 原口 雅浩

2007 年度の年次報告

4 月 29 日 ミラノ・ローマ研修報告（511 教室）

大沼雅明・矢野英子・狩野啓子

5 月 10 日 経済産業省委託「平成 27 年度製造基盤技術実態等調査（我が国における和紙のブランド力強化）」報告書 (http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2016fy/000165.pdf) に「日本の伝統技術で文化財保存修復用品を創る」掲載

5 月 30 日 イギリス研修報告（51A 教室）

狩野啓子「チェルシー薬草園の INIGO 1day EVENT について Jenny Balfour-Paul の新著レクチャー “Deeper Than Indigo Tracing Thomas Machell” を中心に」

矢野英子「ブルネイ・ギャラリーにおける世界の IKAT 展覧会を見学して」

6 月 2 日

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社コンサルティング・国際事業本部 革新支援室 船木陽介氏に経済学部葉山ゼミの学生さんが書かれた和紙研究論文を送付。

6 月 10 日 文化財保存科学研究部会例会

8 月 1 日 和紙の手帖

八女で中原稔弘さん（このプロジェクトを開始したときに支援して下さった八女伝統工芸館の当時の紙漉き担当者）に会い、『和紙の手帖』（2002 年 4 月 20 日 第 6 刷 発行・発売 全国手すき和紙連合会）を預かる。

9 月 11 日 ～ 9 月 15 日 狩野ゼミ ローマ訪問

9 月 13 日 ローマ大学 Tor Vergata 校で、「保存用記録紙として防虫効果の高いクララ和紙について」（2008 年 5 月に開催された文化財保存修復学会第 30 回記念大会における発表を元にした資料：上宮先生作成）と題するプレゼンテーション

12 月 12 日～3 月 24 日 久留米大学文学部 25 周年記念特別展示「旧蔵書にたどる丸山豊と『母音』」を御井図書館展示室で開催。和紙のパーティションを制作して展示ケースの背面を覆う。

1 月 28 日と 2 月 25 日に展示解説

2月16日

(公財)福岡県産業・科学技術振興財団 地域連携コーディネーター (ふくおかIST)
後郷吉彦氏来学 (プロジェクトチームの取り組みについて、和紙や緋の見本を見ながら説明)

3月24日～4月11日 イタリア研修

トル・ベルガータ大学との共同研究と秋の訪問・打ち合わせ

3月27日 御井本館 8F 比較文化研究所で文化財保存科学研究部会部会の過去10年の活動及び本年度の活動を報告

公開講座

「筑後の伝統工芸」御井キャンパス 51A教室 18:30-20:00

6月10日	鳥丸貞恵 (久留米市文化財専門委員)	「久留米緋と藍」
6月17日	古賀 円 (久留米緋未来研究室コッポラート)	「久留米緋の新しい展望」
11月4日	狩野啓子 (久留米大学文学部教授)	「八女和紙の現状と展望」
11月11日	上村哲弘 (上村紙株式会社常務取締役)	「八女和紙の輸出への取り組み」

「文化財をまもる」福岡サテライト 15:00-17:00

6月21日	本田光子 (九州国立博物館特任研究員)	「災害から文化財をまもる」
6月28日	植野かおり (立花家史料館館長)	「立花家史料館の文化財」
7月5日	狩野啓子 (久留米大学文学部教授)	「河北家の児童文学関連資料」
7月12日	安田容子 (東北大学災害科学国際研究所特別教育研究教員)	「東北大震災と文化」
7月19日	大庭卓也 (久留米大学文学部准教授)	「筑後絵葉書コレクションについて」

久留米大学文学部産学連携事業

「八女和紙」

6月5日 八女手すき和紙プロジェクト学生募集

12月10日 八女伝統工芸館が和紙グリーティングカードを制作

3月23日 「八女和紙との産学連携」報告会

「はじめてのくるめかすり」

6月25日 久留米ほとめき通り夜市オープニングセレモニー参加、第1回ミーティング

7月5日 久留米緋の商品開発に向けて 第2回ミーティング

9月27日 久留米緋の商品開発に向けて 第3回ミーティング

12月13日 試作品づくり

12月17日 作成した試作品を八女和紙の上に飾り、学内の目につく場所に設置

ニュース

11月3日

文化財保存科学研究部会の「研究協力者」としてご助力いただいている中野三敏先生が、平成28年度文化勲章を受章。

12月16日

プロジェクトチームがイタリアを訪問した際に大変お世話になり、また久留米大学にも講演でお越しいただいた河野雅治元駐イタリア日本大使がイタリア共和国大十字騎士勲章（カヴェリエーレ・ディ・グラン・クローチェ OMRI Cavaliere di Gran Croce）受勲

プロジェクトチームからの記念品として、昨年ミラノ・ビッコカ大学協定書のバインダー（緋と和紙を組み合わせた物）として作成して好評だったものを送付。材料はすべて、研究部会として保管してあるものを使い、制作は寺島表具店に依頼。

3月25日

文化財保存科学研究部会発足の時から、色々とお世話になった本田光子特任研究員が、九博ミュージアムホールにて最終講演（「九博バックヤード生活を終えて ー基盤作りの一端に携わった14年ー」）

（文責 原口 雅浩）